

【様式1】 平成28年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	高山市	学校名	東山中学校			
校長名	井口 豪	対象学年	全校	人数	380	人
活動名	①郷土の未来を語る会 ②飛騨さしこ大のれんづくり	時間数	① 2 3 ② 2 0	時間	継続年数	3 年
題 材	① 自然環境 [大八賀川・乗鞍・宮川・桜 等] ② 歴史 [陣屋・城山・国分寺・屋台 等] ③ 文化 [高山祭・郷土料理・めでた・春慶塗り・飛騨さしこ 等] ④ 地場産業 [農業・新鮮野菜・春慶塗り・木工業・飛騨牛・飛騨さしこ 等] ⑤ 絆を深め、よりよいふるさとをつくる活動 [福祉 等] ⑥ その他 (国際化・防犯・防災) [観光都市・安全な町等]					
複数年継続 するための 工夫改善	①郷土の将来について、自分たちが主体的に進めてきた地域の課題調査を基に、地域の方々とディスカッションしていく活動を仕組む。地域のまちづくり協議会との連携を図り、まちづくり協議会作成の人材バンクを学習に活用するなど、地域との連携強化を図る。また、地域人材を題材とした道徳の資料作成を行い、多面的な学習となるよう位置付ける。活動の出口を3年生に位置付け、地域から学んだことを生かして、地域に発信することで地域貢献できるようにし、自己有用感を高めている。進路選択時には、ふるさとに貢献できるようにしたいと願いをもてるようにしている。 ②卒業式で卒業生がくぐるのれんを伝統の「飛騨さしこ」の技法で作成し、伝統の技を学ぶ場としても位置付けている。生徒主体の活動にするために、「さしこプロジェクト委員会」を立ち上げ、生徒から活動を生み出すようにしている。					
1 ねらい ①地域のよさや課題について学び、「私たちが考える郷土」と題して中学生なりの地域課題に対する解決案を地域の方に発信する活動を通し、郷土に生きる一市民として進んで行動する態度を培う。 ②飛騨に伝わる「飛騨さしこ」を伝統産業の面と伝統文化の面の両面で学びながら、卒業時にくぐる「大のれん」を全校生徒、全教職員で作成し、愛郷心・愛校心を培う。						
2 活動の概要 【①郷土の未来を語る会】 (1) 高山市のよさと課題を生徒なりの視点でとらえ、今後の高山市について考えたいテーマを絞る。 (2) 個人テーマを設定し、調べ学習や専門家から学ぶ機会を通して個人の構想を練り上げていく。 ※まちづくり協議会との連携で人材バンク活用。 (3) プレゼン形式の発表に磨きをかけ、自分の思いが伝わるように内容や表現方法を工夫する。 (4) 3年生が「郷土の未来を語る会」で、1・2年生・地域の方・保護者・専門家に向けて発信する。発表を聞いた方々から頂いた意見や質問をもとに、解決を図るためにできることを考えるなど、今後の学習に生かす。 【②飛騨さしこ大のれんづくり】 (1) 3年生を中心とした「さしこプロジェクト委員会」を立ち上げ、デザインを考える。 (2) 「飛騨さしこ」の講師から技法を学び、全校生徒が飛騨さしこの技法でのれんを制作する。 (3) 完成したのれんを全校にお披露目した後、卒業式で「卒業のれんくぐり」をする。						
3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子 小学校で学習してきたことも生かしながら、中学校3年間の学習の集大成として「郷土の未来を考える会」を位置付け、段階を踏んで学習を積み重ねている。どの学年でも、地域住民との関わりを中核に学習を展開している。1年生では「高山市を知る」というテーマで、観光地を中心に高山市の魅力につ						

いて学ぶ活動をし、直接地域の方々と触れ合いながら、高山市の魅力について考察している。2年生では「高山市に生きる」ということで職場体験学習を中核に、伝統産業に生きる人々から「郷土を愛する心」についても学べるように学習を展開している。それらの学習をもとにして、3年生では「郷土の未来を考える会」を出口の活動に位置付け、ふるさとの魅力だけでなく、地域の課題について地域の方々とディスカッションして地域に発信する活動をしている。まちづくり協議会と連携することで、地域のニーズに合わせて提案ができるようにしている。たとえば、防犯や防災においては、地域を調査し、危険個所がないか、見直しを図り、中学生なりに地域をよりよくしようと地域に提言している。

「飛騨さしこ」では、伝統技法を大切にしている講師の方々から直接お話を聞き、実際に飛騨さしこを制作することを通して、技法だけではなく伝統を大切にする心情を学ぶことができている。

4 活動を通しての児童生徒の変容

- ・地域の方々に発表するという重みやディスカッションを成功させようとする営みの中から、自己表出の力やプレゼン能力を高めつつある。
- ・地域の方へ発信したことに対して評価させることが、生徒の自己有用感を高めている。
- ・郷土に住む「一市民」であることの自覚が高まっている。地域への関心をもとうとする姿が1・2年生から出てきている。
- ・伝統技法である「飛騨さしこ」への興味関心が高まり、伝統文化を残していこうとする態度につながり、意欲的に「さしこ」に取り組む生徒が増えている。
- ・「卒業のれん」が愛校心の象徴につながり、「卒業神輿」と共に、東山中学校の誇れる文化として根付いてきている。
- ・「郷土の未来を語る会」と「飛騨さしこ大のれんづくり」を通して、郷土を大切にしようとする心情が生まれ、ふるさとを軸にしてライフプランを考え、進路選択できる生徒が増えてきている。

